

第2回 資本主義への発展と雇用制度

◎今回の要点:

言葉の概念と歴史を知る:「労働」・「生産」・「企業」・「雇用」

○労働を考える

- ・動物と人間 人間:弱い存在、計画をもって、道具を使って、物を作り出す、モノ作りの喜び

○生産を考える

- ・機械体系の出現、原動機・伝導機・作業機、大量生産、生産力と生産関係

○企業とは何か

- ・物やサービスを作り出す組織体、資本家・経営者・労働者

○資本主義以前の労働とは

- ・奴隷制での労働、農奴制での労働

○雇用とは何か

- ・機械制大工業で、大量の労働者を必要とする、児童労働、土地囲い込み
- ・自由な労働者の出現、雇用関係・労働契約、指揮命令と賃金

○資本主義の発展と雇用

- ・産業革命と機械制大工業の発展:工場

○分業・協業とは

- ・分業:工程を分けて作業する 協業:大勢の人が集まって作業をする

○マニファクチャとは

- ・工場制手工業: 機械体制の前に出現: 問屋制手工業

○機械体系で労働はどう変わったのか

- ・中断なく作業ができる:夜間労働、機械が主役・人は客体、労災

○工場法成立の歴史

- ・労働時間の制限、労働運動・労働組合運動、ILO・8時間労働制

○機械制大工業と労働

- ・社会的分業、工場内分業、肉体労働と精神労働、失業者、機械と人間・労働者、モノ作りの喜び

◎ビデオ

ロバート・オーエン: Robert Owen 1771年5月14日 - 1858年11月17日

ニュー・ラナーク New Lanark スコットランド・サウス・ラナークシャー 世界遺産

○参考文献

クチンスキー『労働の歴史』法政大学出版局; 改訂増補版、1970年

エンゲルス『猿が人間になるにあたっての労働の役割』大月書店・国民文庫、1965年、あるいは『マルクス・エンゲルス全集』20巻、大月書店、に所収

基礎経済科学研究所編『時代はまるで資本論』昭和堂、2008年

マルクス『資本論』第1巻

第11章 協業 第12章 分業とマニファクチュア 第13章 機械設備と大工業

※イギリスについて

ホブズボーム『イギリス労働史研究』ミネルヴァ書房〔改訂〕版、1984年

エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』岩波文庫、1990年、『マルクス・エンゲルス全集』2巻、大月書店に所収

※日本について

細井和喜蔵『女工哀史』岩波文庫、1980年

高井としを『私の「女工哀史」』岩波文庫、2015年

山本茂美『ああ野麦峠 ある製糸女工哀史』角川文庫、1977年